

すてっぴ

未婚・非婚 → 貧困?

平均初婚年齢は、平成 23 年において女性が 29.0 歳、男性は 30.7 歳と上昇傾向を続けています。また生涯未婚率（50 歳時の未婚率）も、ともに上昇し、男性については昭和 50 年に比べ、およそ 10 倍の 20.14%となりました。18～39 歳の未婚者のうち 9 割弱が結婚願望を抱いているにもかかわらず、異性の交際相手がいない割合は、男性で約 6 割、女性で約 5 割にのぼっています。

結婚へのハードルが高くなっているのでしょうか。

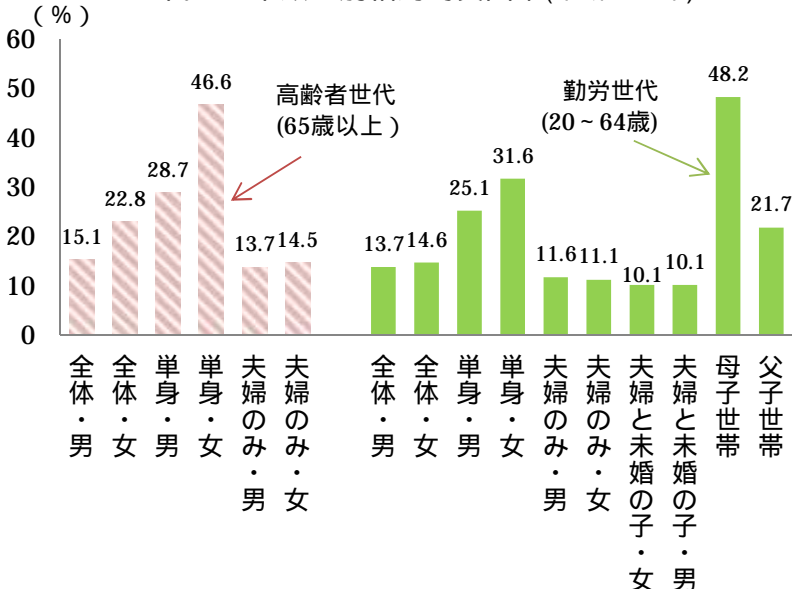


若年層の非正規労働者増加も一因

25 歳～34 歳の非正規労働者は、男性 15.3%、女性 40.9%。正規雇用労働者(男女計)の年収を 100 とした場合、非正規雇用の労働者は 5 割前後の収入です。収入の要因も、若者が結婚に踏み切れない理由のひとつといわれています。

非正規雇用者は厚生年金等被用者保険の適用から除外されやすく、非正規雇用が長期にわたると将来貧困に陥りやすくなる可能性があります。また、今後単身の高齢者増加も予想されています。

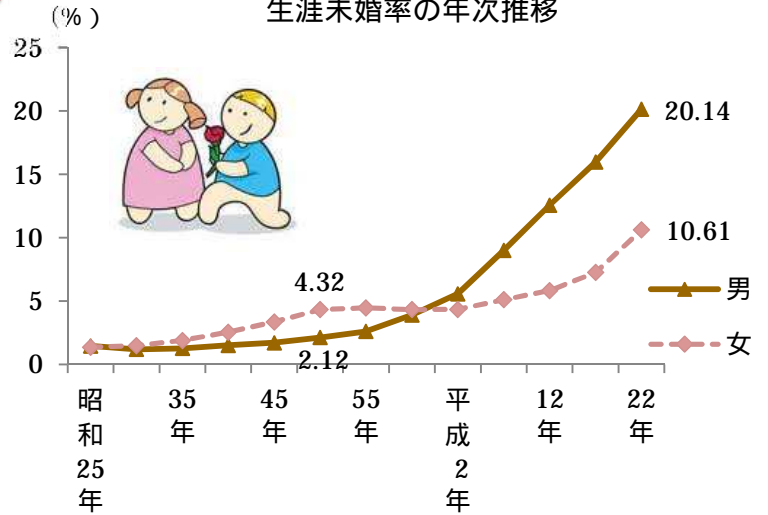
世代・世帯類型別相対的貧困率(平成 22 年)



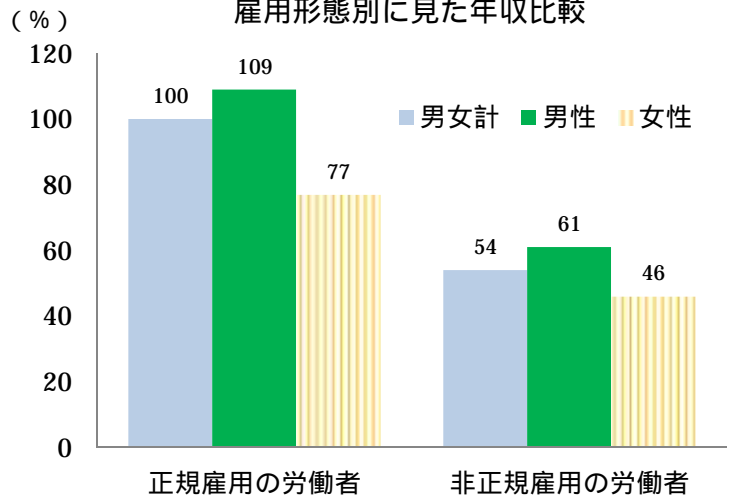
出典：「平成 25 年版厚生労働白書」

「平成 25 年版少子化対策白書」「平成 24 年版男女共同参画白書」ほか

生涯未婚率の年次推移



雇用形態別に見た年収比較



女性の貧困

離婚による母子世帯は増加しています。女性は非正規労働者が多く、また、育児や介護のために就業を中断することも多いため所得や貯蓄が十分でなく、高齢期になるほど経済的に厳しい状況に置かれやすくなります。貧困率は母子世帯や単身女性世帯で高くなっています。結婚を前提とした社会保障制度では対応が難しい状況です。経済的に自立した生活をおくるためにも女性の正規雇用の拡大が重要です。

相対的貧困率とは？

国民一人ひとりの所得を順番に並べ、中央の値の半分より低い人の割合

図書紹介 現代の結婚事情

「婚活」がブームとなっていますが、平成24年の婚姻数は、年間約67万組で、最も多かった昭和47年の6割程度となっています。離婚による母子世帯も増加しています。変わりゆく結婚観、社会情勢において、なかなか結婚に踏み切れない「経済格差」と「価値観対立」。将来を担う若者たちが、意欲を持って人生と向き合い、夢を持ってライフステージに臨める社会が望まれています。



367.4

「婚活」症候群

山田昌弘、白河桃子著
ディスカヴァー・トゥエンティワン
2013

大ブームとなった「婚活」という言葉の生みの親である著者たちが贈る新しい処方箋。男性の収入に依存する「昭和結婚」から男性も女性も脱却しなければ結婚も子供も増えないという。

結婚問題

深澤真紀著
春秋社 2011

「結婚するかしないかは人生の重要な問題だ」と多くの人が思っている。ならば「結婚の何が問題なのか」をいろいろな方向から考えてみたい。結婚という現象を知るために。

367.4



366

独身・無職者のリアル

関水徹平、藤原宏美著
扶桑社 2013

SNEP(スネップ)と呼ばれる20~59歳の孤立無業者の総人口は107万人といわれる。仕事も友達もなく、結婚もせず、家族以外の人との接点がない人々の現実、決して他人事ではない。

新着図書

分類	書名	著者名	発行所
146	おとなが育つ条件	柏木恵子	岩波書店
361	コミュニケーション断念のすすめ	信田さよ子	亜紀書房
366	女たちのサバイバル作戦	上野千鶴子	文藝春秋
366	独身・無職者のリアル	関水徹平、藤原宏美	扶桑社
366	女性管理職のFAQ	森本千賀子	朝日新聞出版
367.1	家事労働ハラスメント	竹信三恵子	岩波書店
367.1	格付けしあう女たち	白河桃子	ポプラ社
367.1	フェミニズムの政治学	岡野八代	みすず書房
367.4	「婚活」症候群	山田昌弘、白河桃子	ディスカヴァー・トゥエンティワン
367.6	危機をのりこえる女たち	戒能民江	信山社
367.9	「AV女優」の社会学	鈴木涼美	青土社
368	ルポ虐待	杉山春	筑摩書房
368	毒婦たち	上野千鶴子〔ほか〕	河出書房新社
369	婦人保護施設と売春・貧困・DV問題	須藤八千代、宮本節子	明石書店
379	だれも教えてくれなかったほんとうは楽しい仕事&子育て両立ガイド	小栗ショウコ、田中聖華	ディスカヴァー・トゥエンティワン
495	産後クライシス	内田明香、坪井健人	ポプラ社
704	森美術館問題と性暴力表現	ポルノ被害と性暴力を考える会	不磨書房
780	女性アスリートは何を乗り越えてきたのか	読売新聞運動部	中央公論新社
936	名誉の殺人	アイショ・ヨナル	朝日新聞出版



367.4

ひとり上手な結婚

山本文緒、伊藤理佐著
講談社 2010

恋愛小説家と新婚漫画家が結婚のツボを公開。どうしたら結婚できるの？続けられるの？結婚しなきゃいけないの？などユーモアを交えながら核心に触れたエッセー&漫画。



369

生活保護とあたし

和久井みちる著
あけび書房 2012

地方公務員であった著者はDVから逃れるために失業。3年半の間生活保護受給者となる。毎日の暮らし、その中での悩み、そしてささやかな希望。生活保護受給者のありのままの生活をつづった。



369

ルポ母子家庭

関千枝子著
岩波書店 2009

育ち盛りの子ども抱えている母子家庭は「待たなし」の状況のなかにいる。このままでは「子どもの貧困」が深刻化し「貧困の連鎖」となってしまうのではないか。「母」の老後、「子」のこれからを模索。



367.4

結婚の才能

小倉千加子著
朝日新聞出版 2010

本気で結婚したければ、妥協すればいいのである。条件を云々している間は結婚できない。「婚活」なんて言っている場合？と、厳しく優しく鋭い著者の視点が痛快。

時代を拓いた女たち

のなか えんじょ
野中 婉女

万治3年(1660年)～享保10年(1725年)

女医の源流に位置づけられる野中婉女(通称:婉)は、万治3年、土佐に生まれた。婉の父野中兼山は、土佐藩の家老を務め、様々な藩政改革を実行。河川の治水などの土木事業や殖産興業などは、後世にまで及ぶほどの大きな成果を上げたが、反面夫役や過酷な年貢の取り立てなどで多大な負担を領民に強いた。他国に逃げ出す者も出てくるほどで、多くの恨みをかい、政敵も多かった兼山は失脚、その年に病没する。その死後に一家取潰しとなり、婉はわずか4歳で罪人となった。母と子、乳母たちは土佐の西端、宿毛に幽閉される。竹矢来を周囲にめぐらし、監視のついた山峡の一軒家が獄舎だった。外部との交流は一切絶たれ、藩主がかわっても、男子の係累が途絶えるまで40年もの間許されることはなかった。長姉は嫁ぎ先から戻され子とも引き離されて幽閉、二男は狂死する。この長い幽閉生活の間、長兄から学問を教わるが、聡明な婉は、他の兄弟にひけをとらなかつた。先の分らぬ日々、学ぶことの虚しさが募ることもあったが、婉は学ぶことをやめなかつた。生きてさえいればいつか必ず赦される日が来る、と。元禄26年、生後5か月で幽閉された末の弟の死と引き換えに、40を過ぎていた婉たち姉妹はもはや子も産むまいと、やっと赦免される。43歳になっていた。姉と妹は住み慣れた幽閉地に残ったが、婉は新たな人生を歩きだす。母と乳母を連れて土佐朝倉の地に戻り、医業を始めたという。女医の誕生である。

外部と閉ざされていた生活の中で婉がどのように医学の勉強をしたのか、確かなことはわかっていない。父と同じ南学を学び広めた谷秦山とは、幽閉中手紙のやり取りを通して多くのことを学んだと伝えられている。しかし、師と仰ぎ、心の支えとした秦山も政争に巻き込まれ、幽閉ののち亡くなってしまうという不運だった。

婉の診察は、脈所に糸を結び、もう一方の端を持って、糸に伝わる脈拍で診断するというもの。調合する薬がよく効き、「お婉さまの糸脈」として評判をとる。ある時、いたずら者が糸の先をこっそり猫の足に結びつけた。うちに帰り、もらった薬を開いてみると鯉節が入っていたという逸話が残っている。婉は、当時ほかの女性たちがしていたお歯黒もせず、眉も落とさなかつた。藩主から勧められた縁談も断り独身を通す。宝永5年、先祖をまつる子孫が誰もいないため、土佐山田の地にお堂を建て、野中神社を建立。300年余りたった現在も「お婉堂」として親しまれている。家老の娘として生まれ、罪人となり、女医となった婉。数奇な運命に翻弄されながら、誇りを捨てずにただひたすらに「生きる」とことと向かい合った婉。肉親を失った悲しみを胸に、思うままに生き抜き、66歳で没。

参考資料：「理系の扉を開いた日本の女性たち」婉という女」ほか

『天 我に生を与ふれば、必ず赦を得べし。

然れば他所に移りて其時を期して祖廟を造らん』

にゅーすBOX

育休給付拡大 賃金の3分の2

厚生労働省は、育児休業中に休業前賃金の50%が支給される「育児休業給付」について、育休取得から半年間は67%に引き上げる案を労働政策審議会の部会に示した。平成24年度育休取得率は、女性83.6%に対し、男性は1.89と低迷している。所得補償を拡大することで、夫婦ともに育休を取りやすくし、子育てを支援するのが狙いである。

婚外子相続格差 撤廃

結婚していない男女間の子(婚外子)の遺産相続分を、法律上の夫婦の子(嫡出子)の半分とする規定を削除する民法改正案が可決、成立した。婚外子と嫡出子の相続分は原則として同じになり、明治時代から続く差別が115年ぶりに改められることになる。

女性の刑務所入所 20年間で2.4倍に

平成25年版犯罪白書で、昨年(2023年)の女子刑務所入所者が2225人と、20年間で約2.4倍に増え、特に65歳以上の高齢者では10倍にもなることが明らかになった。今回の白書は女性の犯罪に焦点を当てた。女性受刑者の3人に1人は入所時点で結婚していたが、出所後夫の元に戻った人は1割程度にとどまる。

お産事故補償対象拡大へ

日本医療機能評価機構の運営委員会は、お産の事故で重い脳性まひになった赤ちゃんに補償金を支払う「産科医療補償制度」の対象拡大の素案をまとめた。厚生労働省の審議会で決定し、平成27年から実施する予定。現在は、体重2千グラム以上で33週以上が対象となるが、1400グラム以上で31週以上に拡大する。支払額は従来通り600万円の一時金と、年120万円を20年間の計3千万円とする。

働くママ 島根が1位

総務省のまとめた女性・高齢者の就業状況によると、育児をしながら働いている女性の割合が最も高いのは島根県で74.8%だった。全国平均は52.4%で、最も低い神奈川県は41.1%、埼玉県は46.4%となった。都市部においては、親との同居や、保育所の定員数が少ない傾向にあることなどが背景にあるとみられる。

練馬区有地活用 特養整備

練馬区は、特別養護老人ホームの整備をさらに促進するため、「学校給食第二総合調理場」跡地(区有地)を無償で貸し付け、特別養護老人ホームを運営する事業者を誘致し、入所待機者の解消を図ることとした。平成26年度に事業者を決定し、29年度からの開設を目指す。

親と同居の未婚者 10年で倍増

国勢調査によると、都内で暮らす30~40代の女性のうち、親と同居する未婚者が急増している。平成22年国勢調査では、35~44歳の女性108万人のうち12万人が同居し、前回調査(平成17年)より3万人増え、前々回と比べると倍増。総務省統計研修所の西文彦さんは「未婚の女性が増える一方、非正規雇用で経済的な余裕のない人の割合も上昇している。生活費を抑えるために親と同居している女性が増えているのではないか」とみる。

日本初 母乳バンク

病気や早産で母乳が出ない母親に代わり、別の女性の母乳を提供する日本初の「母乳バンク」が、昭和大小児科に誕生した。低出生体重児は免疫の働きが不十分で、病気のリスクを避けるには母乳が効果的。提供母乳に感染症がないことを確認し、低温殺菌処理後、マイナス70度で冷凍する。提供、利用ともに無料とする。母乳バンクは欧米を中心に先進国のほとんどで整備され、約40か国で定着している。

学童保育 1クラス定員40人

厚生労働省は、放課後に小学生を預かる学童保育の質の向上を図るため、定員を1クラスおおむね40人までとした。また、職員を原則2人以上配置するよう義務付ける方針を固めた。平成27年4月に運用開始予定。

障害者虐待 1500件

障害者虐待防止法が平成24年10月施行され、今年3月末までの半年間で、自治体に虐待の相談通報が4502件寄せられ、1699人が虐待を受けたと認定されたことが厚生労働省の初調査でわかった。家族や親族らによる虐待が8割を超え、3人が死亡。家族らによる虐待では、被害者の約65%が女性。障害別では知的障害(49%)や精神障害(36%)が多かった。

男女平等 日本105位

世界経済フォーラムが発表した「世界男女格差報告」によると、日本は調査対象の136か国中105位。平成18年の調査開始以来最も低い。100点満点に換算すると64.98点で、経済(104位)と政治(118位)が特に低い。日本は企業などの管理職に占める女性の割合が9%と低く、政治でも、衆院議員に占める女性の割合は8%である。また、働く女性の6割は出産を機に離職する。

途上国15歳未満での出産 年200万人

国連人口基金が「世界人口白書」を公表した。18歳未満で出産する途上国の少女は、推計では年間730万人、うち200万人は15歳未満という。3人に1人が18歳未満で結婚する児童婚。妊娠と出産の合併症で年7万人の少女が死亡しているという。

